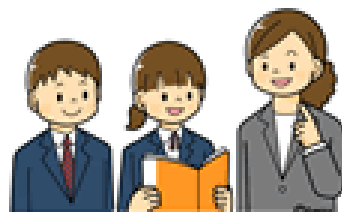


4月18日に本校3年生100名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

今年度、国語A（主として知識）・国語B（主として活用）、数学A（主として知識）・数学B（主として活用）が実施されました。2教科A・Bともに全国平均をやや下回る結果となりましたが、領域や設問によっては全国平均を上回るものも見られます。国語Bでは「話すこと・聞くこと」、数学Aでは「関数」で全国平均を上回る正答率を示しています。反対に苦手とする領域は国語Aの「読むこと」、数学Aの「資料の活用」となっています。



また、大きな特徴としては無回答率が全国平均に比べて低く、あきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢が身につけていることが挙げられます。

今後も引き続き、基礎・基本的な知識の定着をはかりながら、グループ学習などを通じて情報・資料をよく読み、自分の考えや意見をまとめ、発表できる能力を付けていきたいと考えます。

国語科より

読書に親しもう！
グループ学習に取り組もう！

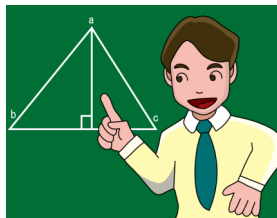


全体として全国平均正答率を若干下回るものの、国語A（知識理解技能）は0.6ポイント、国語B（話すこと・聞くこと）は1.5ポイント、全国平均を上回りました。特に、国語Bの「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」は全国平均を5.3ポイント上回ったことから、聴く力の育成が成熟してきたことを示していると考えられます。

しかし、「鮮やか」が88.7%、「キボ」が57.7%という正答率から小学校漢字の書き、中学校漢字の読みの復習をしていくことが必要です。授業内で積み重ねられる学習を行っていくことで改善したいと思います。

また、選択式、短答式の問題に比べて、記述式の問題は京都府・全国と比べ7.8ポイント落ち込みがあります。一つ一つの知識をどう活用するかといった所につまづきがあり、今後は記述式に慣れる課題の設定により改善していきたいと思います。

数学科より



学びを深める。
発信する。
話し合い、広げる。

全体として全国平均正答率を若干下回っていますが、数学A（知識）では、数と式で全国平均を上回りました。また、数学B（活用）でも数と式が全国平均正答率を上回る結果となりました。一方で、図形や資料活用を苦手としています。

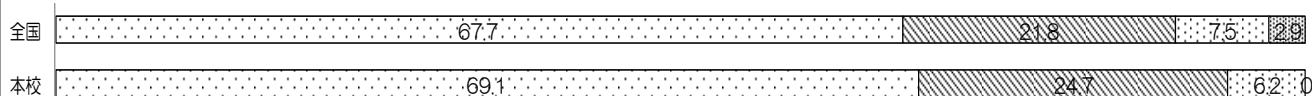
質問紙では、「数学の学習は将来社会で役に立つ」という回答が比較的多い一方、「数学の勉強が好き」「数学の勉強は大切」は肯定的な回答が全国平均を下回っています。このため、身に着けた学力を身近な問題とつなげられるように学習していきたいと思います。

また、学習した内容を応用・発展することを苦手とする傾向も見られ、基礎・基本を大切にしつつ、活用する力を育てたいと思います。

生徒質問紙調査から ①

家で学校の宿題をしていますか

□している □どちらかといえば、している □どちらかといえば、していない ■全くしていない ■その他・無回答

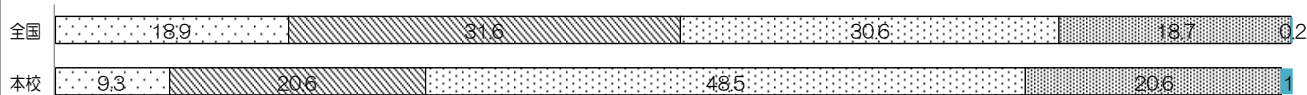


★「家で学校の宿題をしていますか」という問いには「している」もしくは「どちらかといえば、している」という回答が全国平均の回答を上回っています。上記の問い以外にも「学校へ行くのは楽しいと思いますか」「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」の問いに対して、肯定的な意見が全国平均を上回っています。

生徒質問紙調査から ②

家で、学校の授業の復習をしていますか

□している □どちらかといえば、している □どちらかといえば、していない □全くしていない ■その他・無回答



★前述の「家で学校の宿題はしていますか」については「している」もしくは「どちらかといえば、している」の肯定的な回答が多かったものの、家庭学習による予習・復習をしている生徒の割合が全国平均を大きく下回っています。一方で、テレビやビデオ・DVDの視聴、テレビゲーム、携帯電話・スマートフォン(通話・メール・インターネット等)に費やしている時間が多くなっています。また、家族との会話時間や、地域行事への参加についても全国平均を下回っています。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、基礎的・基本的な学力の大幅な向上と豊かな感性・情感・知恵を育むことを目標として、日々の授業を大切にすることを基本に、週末課題・確認テスト、朝読書、定期テスト前学習会・夏季休暇中学学習会・土曜学習会の実施、校下2小学校との学習状況の情報の共有や、交流などをすすめています。その結果、2教科とも全国平均は下回っているものの、国語B「話すこと・聞くこと」や数学A「数と式」など学習領域・設問によっては上回っているものも見られます。

生徒質問紙調査では、「家で、学校の宿題をしていますか」という問いに対して肯定的な回答をした生徒が全国平均を上回り、昨年度と比べても飛躍的に上昇しています。そのことから、上記で示した取組が生徒たちの中に意識づけられてきているのではないかと考えています。今後も一層の、学校生活の充実が学力向上につながると考えています。また、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」「自分にはよいところがある」という問いに『当てはまる』と答えた生徒が昨年と同様に大多数を占めており、自己有用感・肯定感がそだちつつあると考えられます。一方、宿題は家庭で行っているものの、復習するまでには至っていないことが今回の調査で明確になりました。これは携帯・スマホなどの使用時間が長いことなどが起因しており、今後引き続き、家庭とともに改善にむけて取組たい課題です。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、学習確認プログラムの結果も含め、これまでの調査と比べて、学力は徐々に伸びてきており、生徒質問紙調査の結果も改善の方向にあり、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

